

調査結果まとめ（調査期間 平成29年10月から11月）

方法	郵送 (市内在住者無作為抽出)	シティバス利用者	施設利用者
<p>回答内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1か月以内にバスを利用した人は3割 ・バス利用者のうちシティバス利用者は3割 ・3年以上前から路線バスを使用している人が6割 ・鉄道駅への移動、通院、通勤でバスを利用している ・乗り継ぎはしたくないという人が5割 ・市内のバス路線に満足している人は5割程度 ・車や自転車に乗らなくなったらバスを利用する人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年以上前（前回の見直し）からシティバスを使用している人が6割 ・市民病院、市役所、鉄道駅への利用者が多い ・通院で月1回以上利用する人が約5割 ・シティバスに満足している人が8割以上 ・乗車時間は何分でも良いという人が約6割 ・乗り継ぎはしたくないという人が9割以上 ・バス停間隔及びバス停設置箇所について、現状のままでよいという人が8割以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・バス利用者のうちシティバス利用者は6割 ・3年以上前から路線バスを使用している人が7割 ・鉄道駅への移動、通院、通勤で利用している ・乗車時間が長くても、乗り継ぎはしたくないという人が6割 ・市内のバス路線に満足している人は5割程度 ・車や自転車に乗らなくなったらバスを利用する人が多い
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用する人は繰り返し利用している ・通院や駅への移動手段としてバスを利用 ・乗り継ぎをしたくない人が5割 ・市内バス路線に対して半数は満足 ・将来車に乗らなくなったらバスなどを利用する 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用する人は繰り返し利用している ・市民病院等の施設への移動で利用 ・目的地までは乗り換えずに行きたい ・既存の路線に対しては満足している 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用する人は繰り返し利用している ・通院や駅への移動手段としてバスを利用 ・目的地までは乗り換えずに行きたい ・市内バス路線に対して半数は満足 ・将来車に乗らなくなったらバスなどを利用する

- 今後のまちづくりにおける方向性を示す「立地適正化計画」

立地適正化計画の方針

ライフタウンとして、暮らしやすい春日井市を目指す。

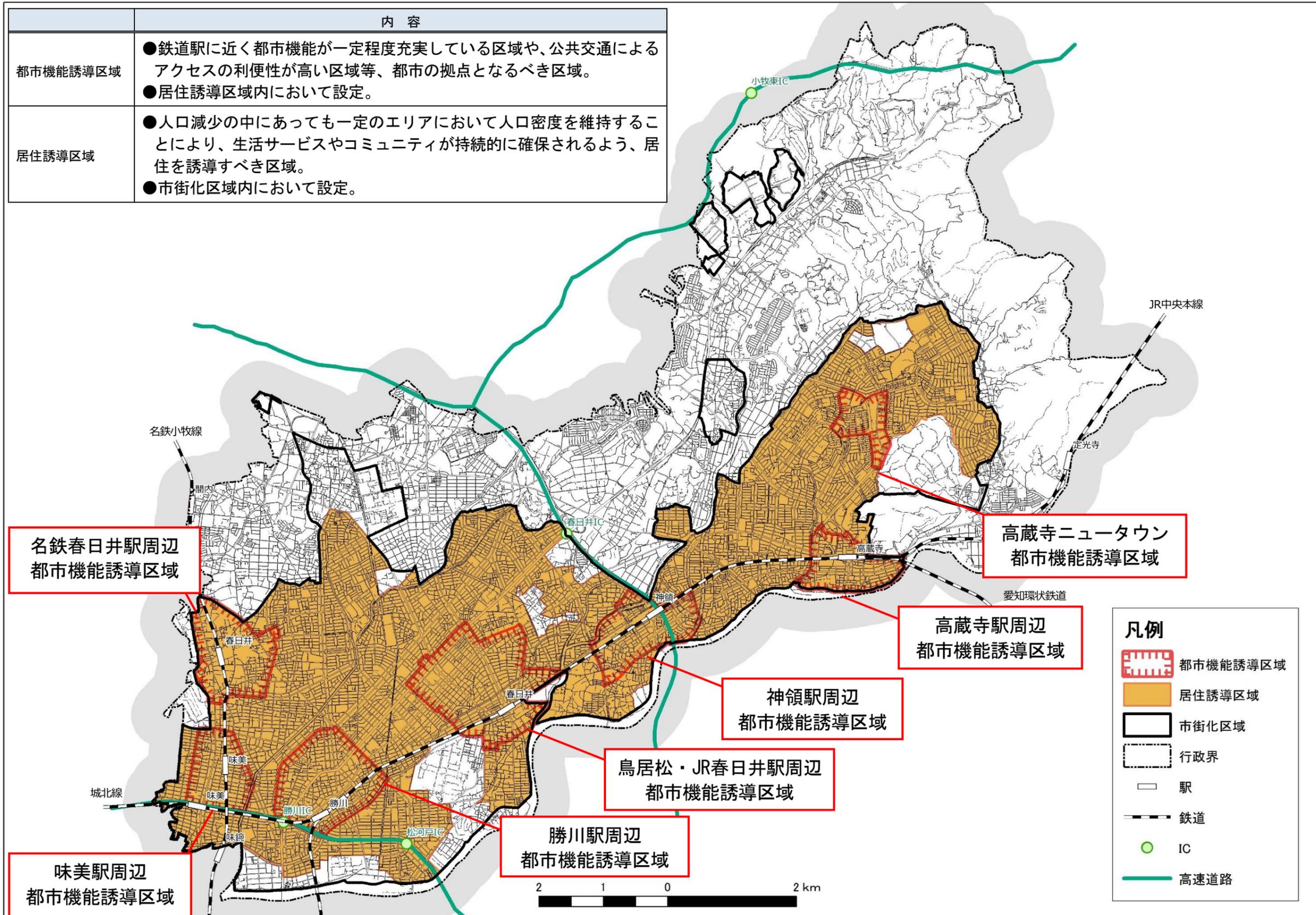
まちづくりの方向性

- 「都市の機能が集約したまちづくり」を実現
⇒将来を見据え、集約型の都市構造の構築に向けた取り組みが必要です。
- 春日井市の特性を踏まえた集約型の都市構造の構築
⇒利便性の高い鉄道駅を中心に拠点を形成するとともに、拠点の位置づけに応じた都市機能を誘導します。
⇒若い世代に定住先として選ばれる、子育てしやすい居住環境をつくります。
⇒充実した都市基盤や主要駅からの交通利便性が高い暮らしやすい区域への居住を推進します。

誘導方針（交通に係る方針）

- 生活サービス施設が集積する拠点への円滑な移動を可能にする公共交通網の連携、充実

●都市機能誘導区域、居住誘導区域



アンケートの意見

- ・利用している人は何度も利用している（利用し続けている）
- ・既存の路線に大体満足している
- ・バス乗車時間に対し、特に要望はない
- ・目的地までは乗換えなしで行きたい
- ・市民病院（医院）、市役所、鉄道駅への移動需要が多い
- ・車に乗らなくなった時に公共交通を利用したい

市民からの要望

- ・目的地までの乗車時間短縮
- ・新たな路線（バス停）の整備（未運行地域から要望あり）
 - 移動手段の無い地域への整備
 - 病院近くへのバス停設置
- ・運行本数の増加
- ・重複路線の改善

かすがいシティバスの
課題・問題点解消に向けて

既存のバス路線を基本に

1 運行サービスの充実

2 満足度の高い路線設定

居住区域と都市機能区域・主要施設を中心とした
利便性の高い交通体系の維持・確保